

在日中国系企業の企業内接触場面における関係構築 —日本人従業員の中国人経営者との関係形成プロセスを通して—

申 愛子

学位取得年月：平成19年3月

取得学位名：人文科学修士

学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】企業内接触場面、収斂、分岐、気づき、関係構築、M-GTA

【要旨】

本研究では、日本人従業員（Japanese worker 以下 JW）の中国人経営者（Chinese executive 以下 CE）との関係構築を明らかにするために、中国系企業で働く JW7 人にインタビューを行い、修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて、「JW の CE への意味づけによる関係形成プロセス」という視点から分析した。その結果、顧客との結びつきを大切にするという意識が結果図∞（無限大）の図形の交差する部分にあり、その両側に【母語話者意識の強いカテゴリー】と【従業員意識の強いカテゴリー】が生成された。どのカテゴリーに入るかを決めるのが CE に対する見方である。二つのカテゴリーは違ったプロセスを形成しており、「母語話者意識の強い JW の CE との関係形成プロセス」では、CE から分岐を起こすことで信頼関係が構築されず、「従業員意識の強い JW の CE との関係形成プロセス」は信頼関係の構築に失敗する第1段階を持つが、気づきがある場合、第2段階に進むことで信頼関係の構築に成功することが分かった。この結果から、分岐を起こす母語話者意識に対して、まず収斂の意識を持つことが必要であることと、収斂の意識を持った上で、接触場面でのコミュニケーションプロセスの段階性を理解する必要があることなどが示唆された。

(しん あいず)

大学院留学生の研究生活における 困難度と関連要因

園田 智子

学位取得年月：平成19年3月

取得学位名：人文科学修士

学位授与機関名：お茶の水女子大学

【キーワード】大学院留学生、困難度、人間関係、コミュニティ

【要旨】

本研究は、日本の大学院で研究生活をおくる大学院留学生に焦点を当て、その研究生活上の困難度と関連要因について明らかにすることを目的とした。質問紙調査法によって大学院留学生 175 名のデータを分析し、その結果、困難度の因子として「研究基礎力」「教員との人間関係」「日本人学生との人間関係」「研究への不安」「日本語力」「経済的困難」の6つが見出され、様々な困難を抱えていることがわかった。中でも「研究不安」は、研究への効力感や研究環境との相関が高く、また教員や日本人学生との人間関係とも関連の深い困難度であることから、個人の問題としてとらえるだけでなく、大学院留学生をとりまくコミュニティの理解が重要であることが示唆された。

(そのだ ともこ)